

シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン掲載))

【第33回】

「岩瀬子どもかがやき教室」

富山県富山市立岩瀬小学校長 立田ひろみ

「ワーツ、キャー」学校に隣接する公民館にある『岩瀬子どもかがやき教室』の部屋に近づくと、毎回子どもたちの大きく元気な声に驚かされる。教員なら、一喝して静かにさせることもあるが、指導員の方にとっては困難も多いだろうと考えると、頭の下がる思いである。また、子どもたちはそれだけ学校で我慢し、窮屈に過ごしてきた鬱憤を晴らしているのではないかと疑いたくなるような賑やかさである。

ある日、指導員の方が強い口調で5～6人の子どもを叱ってくださっている場面に出くわしたことがある。「なんべん言っても分からんがなら、ここへ入ったらだめ」言われた子どもはしぶしぶ顔で「分かった」、「今度からやらんから」と答えている。その光景が、いかにも昔どこにでも見られた、近所のおばちゃんに、悪いことをして叱られている子どもの姿と重なった。地域の方が、保護者の代わりにこうして温かく叱ってくださっていることを、たいへん有り難く感じたことでもあった。

岩瀬小学校は、幕末から明治にかけて日本海で活躍した「北前船」による交易で発展した港町にある。国指定重要文化財の北前船回船問屋「森家」などの旧家が立ち並ぶ歴史情緒あふれた地域でもある。

この特徴を生かし「岩瀬かがやき教室」では、歴史スポットを歩く三世代交流や回船問屋「森家」での写真教室などが行われており、PTAや児童クラブ、食生活改善委員などの方々が、子どもたちの安全を第一に指導にあたってくださいている。

子どもたちは、「あれなあに」、「これどうするの」、「なんで」と様々な質問を指導員の方にするが、指導員の方は丁寧に答えてくださっている。

この教室は、地域の方々の協力や参加があって開催できるものであり、日頃接することの少ない地域の方々と触れ合うことによって、子どもたちにとっては、大変よい体験ができる場所となっている。

このように、地域の皆さんに見守られ、温もりのある「岩瀬子どもかがやき教室」を運営していただいていることに、心より感謝しており、これからも、地域と学校が連携して「岩瀬子どもかがやき教室」を応援していきたいと思っている。

(初中教育ニュース(初等中等教育局メールマガジン)第130号に掲載)